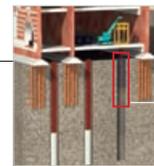
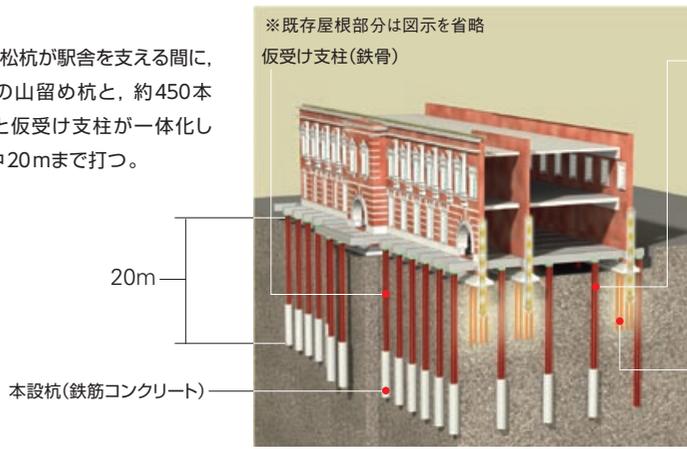


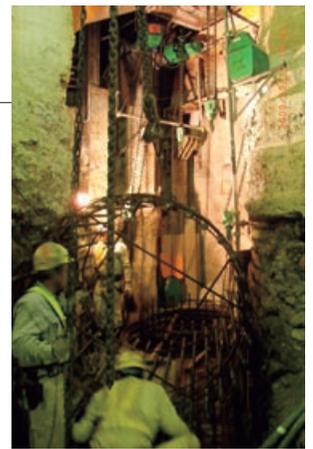
免震

杭打ち

約1万本の松杭が駅舎を支える間に、建物外周の山留め杭と、約450本の本設杭と仮受け支柱が一体化した杭を地中20mまで打つ。



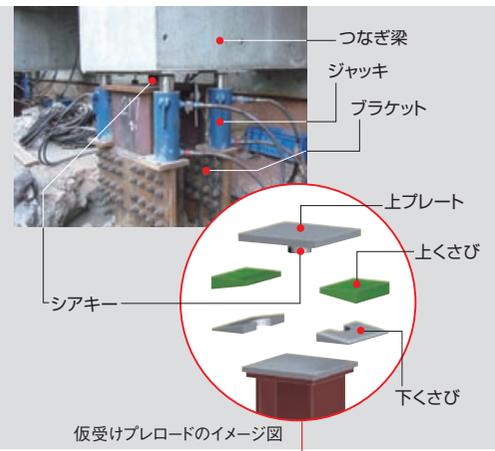
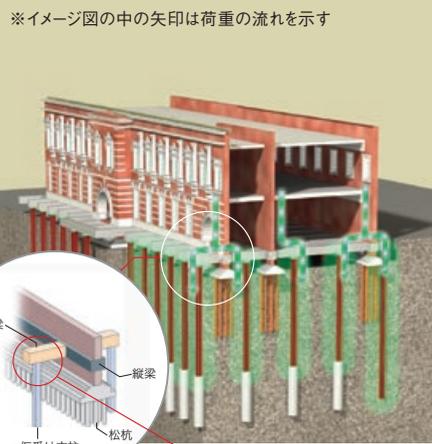
駅舎内は狭所作業のため、鉄骨や鉄筋の部材を何度も継ぎ足す必要があった。本設杭用の鉄筋カゴを入れる様子(写真真右)



化

仮受け

〈1階躯体構築〉RC造躯体構築。レンガ壁直下に「縦梁」と駅舎の荷重を仮受け支柱に伝える「つなぎ梁」をつくる。



〈仮受けプレロード〉

①つなぎ梁の下にシアキー（円柱状突起）が付いたプレートを設置し、下くさびで挟み込む ②支柱側のブラケットにジャッキ設置 ③ジャッキアップし駅舎荷重を支柱に移行 ④上くさびを打ち込む ⑤ジャッキ、ブラケットを撤去し作業完了。

事

地下躯体構築

既存の基礎、松杭を撤去しながら逆打ち工法で地上に近い階から地下2階分を構築する。地上3階部分の復元工事も並行して行う。



撤去された松杭



流れ

免震化

地下躯体の構築後、免震装置を設置する。フラットジャッキでレンガの変形を最小限に抑え、駅舎の荷重を仮受け支柱からアイソレータに完全に移行し、本受けする。最後に仮受け支柱を撤去、免震化が完了。



僅か70cm程の厳しい作業環境のもと免震化が行われた

